

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 一宮市立浅井北小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 491-0143  
愛知県一宮市浅井町大野字南土山75番地

E-mail azaiki-e@city.ichinomiya.aichi.jp  
Website <http://www.school.city.ichinomiya.aichi.jp/~azaiki-e/>

幼児児童生徒数 男子 171名 女子 177名 合計 348名  
幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校では、全学年で、自然学習・環境学習、人権学習、歴史・文化・伝統に関する学習を系統的に行う。この学習で、将来にわたって自分の地域の良さに気づき、誇りと愛着がもてる児童を育てていきたいと考えている。

具体的には、環境学習、平和・人権、世界遺産・地域遺産学習を柱に、①自然環境を考える活動(ホタルの飼育活動、トンボ教室・ヤゴ救出活動)、②人権を考える活動(老人福祉施設訪問)、③歴史・文化・伝統を考える活動(古墳探検、琴演奏体験、名古屋友禅染め体験、伝承遊び体験)を行った。

### ① 自然環境を考える活動(ホタルの飼育活動、トンボ教室・ヤゴ救出活動)

ホタルの飼育活動は、「昔はこの地域にもホタルがいくらでもいた。ホタルを子どもたちに見せたい」という地域の声を背景に、平成15年から始まった。以前は濃尾平野にも生息していたという「ヘイケボタル」を、地域に住むホタル飼育に詳しい方の協力を得ながら、飼育することとなった。主な活動は、幼虫の上陸セットの作製、えさやり、水かえ、ホタル日誌の記録、掲示物作り等で、ホタルの成長に合わせ、一年を通して行っている。

毎年4月には全校児童で校内のホタル池に幼虫を放流する。6月にはホタル観賞会を催し、地域の方や児童など、千人近くの訪問を受けている。

地域のビオトープ管理士を講師に招き、豊富な写真を使って、トンボの種類や生態、ヤゴの飼育法等について分かりやすく説明してもらっている。6月初めにはヤゴ救出を行っている。3年生全員がプールに入り、直接ヤゴを手にして救出する。ヤゴは教室や児童の家庭で育て、トンボにして自然にかえしている。

## ② 人権を考える活動（老人福祉施設訪問）

毎年、全学年が地域にある老人福祉施設を訪問し、お年寄りとのふれあいの場をもっている。お年寄りにダンスや歌、リコーダー、劇、紙芝居を披露したり、お年寄りとゲームをしたり肩たたきをしてあげたりしている。また、どの学年も工夫を凝らしたプレゼントを事前に用意し、お年寄りに渡している。

## ③ 歴史・文化・伝統を考える活動（古墳探検、琴演奏体験、名古屋友禅染め体験、伝承遊び体験）

地域の歴史を学ぶ機会としては、6年生が社会科の歴史で古墳を学習する前後に、古墳探検を行っている。校区内には、「浅井古墳群」として、歴史ある古墳が散在している。この恵まれた環境を活用し、事前に各自で調べ学習をし、探検後には撮ってきた写真なども入れて「古墳新聞」にまとめている。

また、地域の伝統文化に触れる機会として、地域の方々を講師に招き体験を行っている。6年生が、琴の弾き方を教えていただいている。数時間の指導の後、学校公開日に、簡単な曲を全校児童や保護者の前で披露している。4年生は、名古屋友禅染に挑戦している。ランチョンマットに染料で色塗りをした後、加工し、世界に1つしかない作品を作る。1年生は、地域のお年寄りから、おはじきやめんこなどの昔の遊びを教えていただいている。



① の写真（ホテルの放流）



② の写真（老人福祉施設訪問）



③ の写真（琴演奏体験）



③ の写真（名古屋友禅染め体験）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

全学年で、自然・環境学習、人権学習、歴史・文化・伝統に関する学習を系統的に行っている。この学習で、将来にわたって自分の地域の良さに気づき、誇りと愛着がもてる児童を育てていきたいと考えている。  
地域学習や学校行事等を関連付けた活動で目標が達成できるよう、ESDカレンダーを作成し、取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

委員会活動における常時活動にも含めることで、学校全体で組織的に活動できている。ホタルの飼育においては、観察、エアポンプや水温、水の量の調節、餌やりを行っている。また、環境委員会では、ごみの収集において、可燃ごみの重さ、月別の電気、水道の量を調べるなど、学校全体が同じことを意識できるように取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校教育推進部会を設定し、定期的に振り返りを行っている。また、児童、保護者、教師、地域それぞれに対して、12月にアンケートを実施しており、取り組みに対する評価を行うようにしている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESD に関わる活動報告として、地域、保護者へ積極的に学校日記 (HP) により発信している。また、地域、保護者に知っていただくため、ホタル観賞会をはじめとした学校公開を定期的に計画している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成 (地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など) (200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 (200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

特に、ホタルの飼育活動では、ホタルはもちろんのこと、自分の学校に対して愛着をもつ児童が多く見受けられる。また、その結果、トンボ教室やヤゴ救出などに対する活動にも、たいへん積極的に取り組む児童の育成につながっている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

年々、職員の異動も多く、ESD に関わる知識の浸透に課題を感じる。そのため、いま計画されている活動をねらいを明確にしつつ、行事を見直したり、教科との位置づけを考えなおしたりしていきたい。

また、できれば大学等から講師をお招きし、児童も教職員もそれぞれ研修を重ねる機会を設けていきたいと考えている。